

問い合わせ先
海洋情報部
海洋調査課長 深江邦一
TEL099-250-9800(内線 2530)

平成19年3月20日
第十管区海上保安本部

平成18年度の漂流予測を振り返って

第十管区海上保安本部では、海難発生時の搜索区域設定等に漂流予測を実施しています。

平成18年度は、52件の漂流予測を行い、合計7名の人命救助に繋がりました。

1 平成18年度の漂流予測事案件数と主な事例

平成18年度は現在まで、予測事案件数が52件ありました。内訳は、海中転落等の行方不明28件、油流出1件、木材等の漂流物21件、その他2件となっています。

漂流予測の結果が救助に繋がった例としては、7月の宇治群島ダイバー行方不明(4名救助)、2月のマグロ延縄漁船幸吉丸(3名救助)の事案がありました。

2 漂流予測とは？

平成9年1月にロシア船籍ナホトカ号の海難が発生し、二つに折れた船首部が、福井県三国町沖に漂着して大量の重油が流出し、周辺海域に多大な環境被害をもたらしました。海上保安庁では、これを契機に漂流予測の一層の精度向上に努め、流出油以外にも様々な漂流物に対応した漂流予測プログラムを開発するなど、今日では、油流出以外の海難発生時等の搜索区域設定等にも活用しています。